



武並町竹折美濃
伊藤 颯希さん (17歳)

□プロフィール

背番号7番。スイングスピードはプロ選手並みの160km/hを記録。高校通算24本塁打の強打者。野球以外にもバレーやバスケ、サッカーなど体を動かすことが好き。休日は買い物などに出掛け、リフレッシュしている。



▲県大会の本巣松陽戦でホームランを打つ伊藤さん

高校野球の聖地「甲子園」。本年8月6日、県代表として県立岐阜商業高等学校が全国高校野球選手権大会に出場した。チームの主将を務め、4番左翼手として活躍したのが伊藤颯希さんだ。野球との出会いは、小学校3年生の時。父親とプロ野球観戦に出掛け、目の前で見たホームランに胸が熱くなった。「その頃から野球をやりたいと強く思うようになった」と話す。小学生では武並クラブ、中学生では岐阜東濃ボーイズに所属し、実力を付けていった。

中学3年生の時、伊藤さんが出場した試合を、県岐阜商の鍛冶舎監督が見学に来ていた。その出会いが決め手となり、監督の下で甲子園を目指そうと決心した。主将になりたての頃はチームがまとまらず、感染症対策で思うように練習もできず、どうすればいいかと悩んだ。しかし、甲子園出場を決める県大会で勝ち進むにつ

れ、チームがまとまっていくのを感じた。「甲子園出場が決まった時は本当にうれしかった」と話す。ところが初戦直前、一緒に戦ってきた仲間が新型コロナウイルスに感染。伊藤さんは仲間を励まし続け、急きょ出場が決まった選手たちにも「試合に出場できない選手の手分まで頑張って次につなげよう」と声を掛けた。そして迎えた兵庫県立社高等学校との初戦は、10対1で敗退。試合ができたことに感謝を述べつつも「普段の力を出し切れなかった」と悔しさをにじませた。

そんな中、11月23日、社高校と再び対戦することが決まり、甲子園に出られなかった仲間と意欲を燃やしている。「監督や社高校には感謝しかない。全力を出して勝ちたい」と意気込みを語った。青春を共に過ごし、たくさんの経験をさせてくれた野球。将来のプロ入りを目指し、さらに技術に磨きをかけていく。

野球と過した青春
県岐阜商の4番・主将として甲子園出場



その他の話題もウェブサイトに満載



9/21

恵那農高の農場で
クリの青空教室を開催

東野小学校3年生7人が、恵那農業高等学校の生徒が管理する農場を訪れ、クリの収穫体験を行いました。高校生から優しい指導を受け、児童たちは楽しくクリ拾い。太田雪姫乃さんは「収穫体験ができて良かった。拾ったクリは栗ご飯にします」と笑顔で話しました。



9/17

米文化を次世代に伝える
次米抜き穂祭を開催

長島町正家の斎田で、恵奈の里次米みのりまつりの一連の行事のうち次米抜き穂祭が開催されました。本年は3年ぶりに踊り手も参加。稲刈りが始まると「次米みのり音頭」の歌と演奏に合わせ、地元小中学生や関係者などが早乙女姿で田んぼの周りを踊り、収穫を喜びました。



9/25

恵那の秋を代表する祭り
みのりのみのり祭を開催

3年ぶりに、みのりのみのり祭が開催されました。恵那駅からバロー恵那店までの中央通りには各町の食の屋台が並び、「恵那ぐるめ広場」などでも自慢の一品が販売されました。感染症対策のため、1日のみの開催でしたが、多くの人でにぎわいました。



9/21

ぶどう狩りで笑顔もお腹も
いっぱい

岩村町にある豊楽園で、山岡こども園年長児25人が、ぶどう狩りを楽しみました。畑一面にぶら下がったブドウを先生に取ってもらい、みずみずしいブドウを味わった園児たち。小川誠人君は「3房食べたよ。皮も甘くておいしかった」と満足げでした。



9/28

生きがいを持って楽しく
県スポーツグランプリを受賞

現役ゲートボール選手として活躍中の松葉光義さん(長島町、92歳)と林広幸さん(笠置町、92歳)が、第15回岐阜県スポーツグランプリを受賞しました。松葉さんは「こんなに立派な賞状をもらえて光栄です」、林さんは「表彰されるなんて夢みたい」と受賞を喜びました。



9/26

県内の消防隊が集結、大規模
災害を想定した訓練を実施

県内20の消防本部から隊員121人が参加し、緊急消防援助隊として出動する訓練が行われました。市消防防災センターでは、アパートや倒壊した住宅から住民を助け出す訓練の他、車両の多重事故を想定した訓練などを行い、消防本部間の連携と災害対応能力の向上を図りました。